

令和元年度北空知地域住民フォーラム開催結果（評価）

項 目	内 容
1 現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度に深川保健所主催で住民フォーラムを開催、今後も在宅療養や終活について自分の問題として考えられるような住民への普及啓発は必要であるという結果となった。 ・北空知地域は、在宅医療よりも病院や施設に入院・入所し最期をむかえることが多い地域。患者本人、家族の在宅医療に対する理解、覚悟も必要。家で亡くなりたい高齢者もいるが、病院で安心したい家族の思いもある。単身、老老介護の問題もある。 ・このため、本協議会においても、平成29年度に北海道看護協会の事業を活用し深川市で初めて開催、以降各市町持ち回りで開催することとなった。
2 目 的	北空知地域の住民が自分や家族の老いや死を自分自身の問題として考える機会とするいつまでも住み慣れた地域で元気で楽しく暮らすために必要なことを考える機会とする
3 対 象	北空知地域在住の住民 地域住民の在宅医療・介護を支える支援関係者等
4 日 時	令和元年10月27日（日） 13：30～15：45
5 場 所	北竜町公民館 大ホール
6 出 席 者	<p style="text-align: center;">106名 （参加者の事前申込 84名）</p> <p>（北竜町72名、妹背牛町9名、深川市17名、秩父別町3名、沼田町2名、その他3名うち一般66名、支援関係者40名）</p>
7 内 容	<p>（1）北空知地域の在宅医療・介護の取組紹介</p> <p style="padding-left: 20px;">「自宅で安心して暮らすために～チーム北空知の取組」</p> <p style="padding-left: 40px;">・紹介者 北空知地域医療介護連携支援センター事務局長 三ツ井隆博さん</p> <p style="padding-left: 20px;">「自宅で安心して暮らすために～訪問看護の取組」</p> <p style="padding-left: 40px;">・紹介者 深川市立病院訪問看護ステーション「みのり」</p> <p style="padding-left: 60px;">管理者 立花洋子さん</p> <p style="padding-left: 20px;">※北空知地域で在宅療養が必要になった時、どんな支援ができるか、北空知地域の支援関係者から事例を紹介しながら情報提供</p> <p>（2）講演「認知症を予防するために大切なこと</p> <p style="padding-left: 40px;">～あたまの元気度テスト2年間のまとめから～</p> <p style="padding-left: 60px;">講師 北翔大学 生涯スポーツ学部健康福祉学科教授 小田史郎さん</p> <p>（3）意見交換</p> <p style="padding-left: 40px;">コーディネーター 北竜町地域包括支援センター介護予防係長 大井敬太さん</p> <p style="padding-left: 20px;">※在宅医療・介護の取組紹介と講演を聞いての質疑応答、感想・住み慣れた地域で元気に暮らすための活動紹介も含めた意見交換</p>
8 結 果	<p>目的：1.地域住民が自分や家族の老いや死を自分自身の問題として考えることができる機会となる</p> <p style="padding-left: 20px;">2.いつまでも住み慣れた地域で元気で楽しく暮らすために必要なことを考える機会とする</p> <p>・時間に余裕をもって来場された方のために、地域リハビリテーション活動支援事業</p>

で発案した介護予防体操「ライスパワー体操」のビデオを上映。日頃から取り組んでいる地域ではビデオを見ながら一緒に身体を動かしていました。

(1) 取組紹介

- ・北空知の将来予測や医療・介護の状況、広域連携の必要性の説明。平成28年に「北空知地域医療介護確保推進協議会」が設立され、「チーム北空知」を目指しさまざまな取組が行われていることを紹介した。また、介護予防や健康づくり、病気や介護を必要としたときに暮らしを支えるサービスの紹介など住民の皆さんへの情報提供ができました。
- ・訪問看護の取組では、本人と家族の願いに寄り添い、支援スタッフが連携し本人や家族の困りごとに細やかに対応して、自宅や緩和ケア病棟で最期を迎えた3件の事例の紹介がありました。誰もが迎える人生の最期を本人・家族の思いを尊重しながらどのように暮らしていくのか参加者自身が考える機会になっていました。

(2) 講演

- ・認知症対策の最近の動向や認知症予防のためには、認知症を正しく理解して誤解や偏見をなくすことがとても重要であること。また、2年間のあたまの元気度テストの調査結果から、「仲間と運動すること」「よく噛んで食べること」「体力を維持すること」が認知機能の維持にかかわっていると報告があり、住民が認知症予防のために必要なことへの理解を深めることができました。

(3) 意見交換

- ・実際に自宅で訪問看護等サービスを利用されている方から、サービスを利用することの大切さやもっと地域住民に周知していくことの必要性について意見がありました。
- ・「空知ひまわり」「碧水支え合いの会」の日頃の活動状況や住民同士の見守りによる支え合いの現状などが報告され、住民同士で支え合う地域づくりの大切さを考える機会になっていました。やや意見交換の時間が足りなかったのが残念でした。

(4) アンケート結果：回答者数81名 配布数106名 回収率76.4%

- ・北空知の取組紹介について知ることが出来た、まあまあ知ることができたと回答した人は76人で93.8%
- ・講演は参考になった、まあまあ参考になったと回答した人が78人、96.3%
- ・自分自身の人生最期を考えることが出来たが33人、26.4%、家族の人生の最後について考える機会になった29人、23.2%で、自分、家族のこと双方のことを考える機会となった。
- ・自由記載では、訪問看護の内容が事例でよく理解できた、本人・家族の意向を尊重して最後をどう過ごすか考えることができた、認知症に対する認識が高まった、今回のようなフォーラムを今後も継続して欲しい、高齢化がすすむ地域では、地域でのつながり、コミュニティの大切さがわかったなどの記載があった。
- ・参加のきっかけは在宅医療・介護について関心があったが最も多く35人、34.0%。ポスター・チラシをみたが26人、25.2%であった。

(5) まとめ

- ・アンケートの結果からも人生の最後について考える機会となった。また、自身や家族の人生の最期について今から準備が必要と思ったなどの意見が多く、フォーラムの目的は達成されたと思われます。事例発表については、とてもよかった。今後もこのようなフォーラムを継続してほしいとの意見が多く聞かれていました。

- ・講演は北竜町で実施している「あたまの元気度テスト」の報告であり、住民の関心が高く、認知症予防のために心がけることなど自身の生活を振り返って感想を述べられる方がいました。一方で認知症対策の最近の動向など在宅医療介護関係者に向けての内容もあり、やや難しいところもあったと感想を述べている方もいました。
 - ・意見交換では、住民同士の支え合いや見守りなど地域づくりが大切。もっとボランティアの活動内容について知りたかったとの意見があり、意見交換の時間が少なかったと思われます。
 - ・報告者・講演者ともかなり持ち時間を意識されていましたが、終了時間は超過しました。
- 参加される方の年齢層を考慮してもう少し的を絞った内容で時間内に終了できること、参加者との意見交換が十分に行えることを次年度以降の課題として、フォーラムを企画することが必要ではないかと考えます。

(6) 次年度以降開催地 2020年度 秩父別町 2021年度 沼田町